

# 2014 April vol. 2

# 和

住み慣れた土地で 生き生きとした暮らし

DAI2 NARITA  
MEMORIAL  
HOSPITAL



## 当院の理念

看護・介護部長 内田 ひとみ



私たちは、地域の回復期リハビリテーション病院として、医師をはじめ看護師、介護士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、薬剤師、栄養士などの専門職者が各々の専門職性を最大限に活かし、患者さまの「機能障害の改善」と「生活能力を取り戻して頂くこと」を目標にチームで取り組んでおります。また、「夜はパジャマ、昼は普段着」、「排泄はトイレ」、「食事は食堂で」、「入浴は週3回」と「寝・食・排泄・清潔の分離」に重きをおき、理念に基づきケアを提供しております。患者さまの回復には、リハビリの職員が専門的に実施すること、訓練したことを生活の場で活かしていくことが重要になってきます。患者様にとって24時間がリハビリとなり、大変ご苦勞をお掛けしておりますが、懸命に頑張っていっしょに職員一同頭の下がる思いでいっぱいです。

## 回復期リハビリテーションとしての当院の仕組み



脳血管疾患等で急性期病院での治療を経て、当院の回復期リハビリ病棟で集中的なりハビリを行い、自宅で生活するための準備を整えます。

退院後、引き続きリハビリを行う必要がある場合には、「外来リハビリ」「通所リハビリ」「訪問リハビリ」を行っています。また、退院後のフォローとして「退院後訪問」を実施しています。当院では**外来リハビリ**は医療保険で、**通所リハビリ**は介護保険で行い、自宅退院後の生活を安定させるための改善策を立案し、それをもとに必要なリハビリを提供しています。

**訪問リハビリ**は通院が困難な場合、療法士がご自宅

を訪問し、実際の生活場面や環境に合わせたりハビリを提供しています。

**退院後訪問**は退院時指導や住宅改修が適切であったかをお伺いするため療法士が、退院された患者様のご自宅に退院後約1ヵ月後に訪問いたします。

## 退院後もチームでフォローアップ

入院中から退院後の生活を想定してチームでアプローチし、退院後もより安心して地域で生活できるように、他職種が連携して患者様・ご家族様を支援いたします。



# 平成25年度 新入職員 1年を振り返って

質問 1年を終えての感想・今年度の抱負について聞きました

理学療法士として、先輩方や患者様に支えられた1年でした。社会に初めて出て、挨拶や言葉遣いの大切さが身に染みました。今年度も、挨拶や言葉遣いに気をつけ、患者様と共に楽しくリハビリを行っていかうと思います。



理学療法士  
石河 直樹

社会人として1年目の年はあつという間でした。何かと不慣れで業務等でのミスをしたりと、先輩方に助けて頂き、仕事をしていく中で多くの経験ができ、成長できたと思います。2年目は、より積極的に勉強会等に参加していきたいです。



理学療法士  
岸上 久美

この1年を振り返ってみて、1年経つのが早かったように感じます。要領が悪く、先輩や患者様にも迷惑をかけたと思います。やっと少しずつ覚えてきたところで2年目になってしまいますが、精一杯頑張ります。



理学療法士  
山下 千尋

今年度は環境が大きく変化し、あつという間に過ぎてしまったように思います。たくさん失敗した分、今年度は少しでも成長できる1年にしたいです。怪我をせず健康に色々な事を学んでいきたいです。



作業療法士  
河合 慶子

1年を振り返るとあつという間だったと実感しています。同時に自分が成長するかわないかも自分次第であるということも痛感しました。今年度は勉強会に参加する予定ですが、知識の向上と患者様との関係性も大切に成長していきたいです。



作業療法士  
袴田 巖

泣いたり笑ったりと忙しくあつという間の1年でした。自分のためな所が沢山の落ち込む事も多かったですが、周りの人に助けてもらいながら過ごす事が出来ました。今年度はもっと視野を広げ、知識を深めていきたいです。



言語聴覚士  
浅井 実菜子

初めは慣れない事も多かったですが、やっと業務の流れを把握できるようになりました。患者さんとの関わりの中で学んだ事はとても多かったです。今後は患者さんに寄り添ったリハビリをしていきたいです。



言語聴覚士  
松下 尚子

入社して1年、分からない事の連続でしたが、職員の皆さんや患者様の笑顔に支えられ何とか2年目を迎える事が出来ました。リハビリテーションを効果的にすすめられますよう栄養面からもサポートしていきます。



栄養士  
都築 佳苗

## 薬局からのお知らせ



「花冷え」の季節、暖かいと思ったら急に寒くなったりと、この急激な気温の変化に体がついていけず、風邪を引いてしまいます。同じ風邪薬でもさまざまな製品があります。病院の薬でも、市販の薬でも、必ず説明文書がついています。用法・用量、効能・効果、使用上の注意、副作用などが記載されていま

す。必ずよく読んでから使用する習慣をつけましょう。咳止めや鼻炎の薬は同じような成分が含まれていることがあるため、併用すると思わぬ副作用を起こすことがあります。自己判断をしないようにしましょう。冷えると免疫力が落ちて体調を崩しますので、ご注意ください。

## ❖ 院内・病棟レクリエーション

12月：クリスマス会

ゲームや合唱の後、おいしいご飯とケーキが振る舞われました。ケーキは、糖尿病のある方でも安心して食べていただけるよう厨房スタッフが手作りました。

最後にはサンタ・トナカイから皆様へクリスマスプレゼント！スタッフ全員で準備したメッセージカードや写真などをプレゼントさせていただき、皆様の素敵な笑顔を拝見できました。

1月：鏡開き

皆さん目隠しをしながら楽しくおかめを作りました。嚥下障害のある方でも食べていただけるようお餅にも工夫をしました。

今後も季節に合わせた催し物を計画していきますので、お楽しみに。



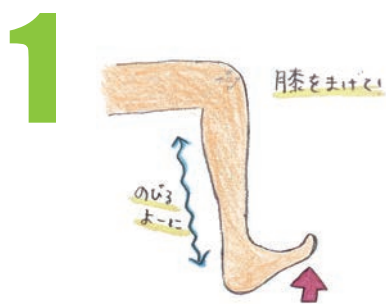
## Let's リハビリ ~むくみよバイバイ~

季節は春へと移っていますがまだまだ寒さが続く今日この頃…。

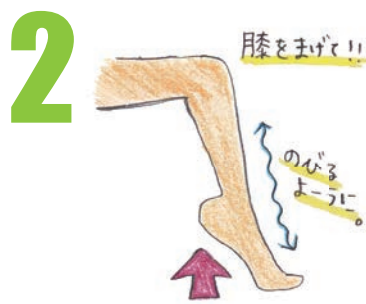
寒さの為、動く機会が減り長時間同じ姿勢で体を動かさないでいると血行が滞って足がむくんだりだるさを感じたりしてしまいます。また冷え症なども血行を悪くするため、寒い季節は特に足のむくみが気になるかも知れません。

むくみとして一番気になるのはふくらはぎ・足ではないでしょうか？

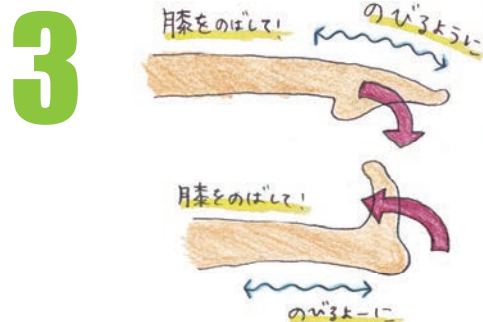
ふくらはぎは第二の心臓とも呼ばれています。それは、心臓から足に流れてきた血液を逆に心臓に向かって押し戻す大切なポンプの役割をしている為です。そのため今回は足のむくみ予防体操をご紹介します。



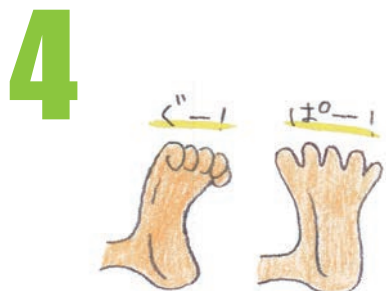
つま先の上げ下げ



かかとの上げ下げ



膝を伸ばしてつま先の上げ下げとストレッチ



足の指をグー・パー



足首をぐるっと回す

### ❗ 注意

体操はゆっくり行い  
3～5秒保持して10回  
程度体調に合わせて  
行いましょう。



## □だけ院長の呟き

その2

### 『読書のすすめ』

昨年6月より当院にも電子カルテが入り、四六時中パソコンに向かっている毎日ですが、カルテに字を書くという習慣がなくなって、脳の老化も相まって益々漢字の忘れがひどく、日本語の文章を書くことができなくなっています。最近日本という国を嫌いになりつつありますが、この世界に例のない複雑な言語、日本語だけは大事にしようと思っていますので、プライベートでは字を書くようにしています。これでも昔は、物書き志望で、高校卒業時には小説家ないし新聞記者になるべく文学部を目指したものです。父親が早く亡くなったものですから親戚の、叔父叔母、年長の従妹などに説得され、親父の遺志(私自身は知らなかったのですが)をついでいやいや医学部に入ってからも、大学に行かず、麻雀をするか、原稿用紙に殴り書きしては丸めて放り投げるといった毎日でした、文芸雑誌の新人賞にも応募(二次予選にもひっかかりませんでした)したことがあ

り、名古屋時代には有名な同人雑誌に随筆を投稿したこともありましたが、文学するには構想を練って書き出すまで一定時間原稿用紙に向かっている必要が、少なくとも私にはありました。しかしながらそのわずかな時間が、物語の中に入り込んで沈黙考する時間が不幸なことにならなかったのも、書きかけの途中書きの終わらない文章がたまる一方でした。

書く方はだめでも読む方はできるということで今でも時間さえあればトイレの中でも、当院の某女性医師のようにお風呂場で読むのは苦手ですが、主に文芸雑誌中心に只管読んでいます。この度第150回芥川賞(直木賞系、大衆小説は余り読みません)が発表され、小山田浩子「穴」も文芸雑誌掲載時点で読み、とても書けそうもない不思議な物語だなと思いました。

結論が出ないうちに字数が尽きてしまいました。うまくまとめるという能力も年とともに低下しているようです。年寄りの呟きとタイトルを改めた方がいいかも知れません。

院長 樋下田 稔昭

### 編集後記



今回で2回目の発行となります「リハ日和」いかがでしたか。まだまだ不慣れで十分に第二成田記念病院の魅力をお伝えできているか不安ではありますが、皆様に少しでも病院について理解いただけるよう、今後も

この「リハ日和」を通して発信していけたらと思っています。そしてより地域に密着した病院を目指していきたいと思っております。

看護師 矢島 沙耶香

### 病院基本理念

「人としての尊厳」と「自分らしさ」を根源に、  
住み慣れた土地での生き生きとした暮らしへの復帰を支援します。



社会医療法人 明陽会

第二成田記念病院

〒440-0855 豊橋市東小池町62-1 TEL.(0532)51-5666  
http://www.meiyokai.or.jp/narita2/ FAX.(0532)55-0660